令和7年度　大阪府新学力テスト（愛称：小学生すくすくウォッチ）結果について

東大阪市教育委員会　学校教育部　学校教育推進室

令和７年 10 月

大阪府が令和３年度より行っている大阪府新学力テスト（小学校５・６年生対象）について、東大阪市立小学校の結果をお伝えします。（調査目的等の概要は P11 に記載）

◇今年度の結果概要

＜教科横断型問題「わくわく問題」・教科問題＞

○「わくわく問題」「教科問題」ともに、平均正答数は大阪府平均にはとどきませんでした。

○「わくわく問題」では、図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える、会話から読み取ることに課題が見られました。

○国語（５年）では、文を正しく理解し、指示語の指示内容を捉えることは出来ていましたが、文の中における主語と述語の関係に注意して、述語の部分を正しく書くことに課題がありました。

○算数（５年）では、資料から読み取った内容と棒グラフが示している内容を関連づけ、内容を正しく理解することはできていましたが、二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を図を用いて比較し、割合を用いて説明することに課題がありました。

○理科（５年）では、体験的に習得した知識は定着していましたが、空気を温めた時の体積の変化についての理解や、水のしみこみ方が土のつぶの大きさによって違いがあるということを理解し、水たまりができなかった理由を考えて、書き表すことに課題がありました。

【平均正答数】

	令和６年度		令和７年度	
	東大阪市	大阪府	東大阪市	大阪府
わくわく問題（5 年）	4.8/9 問	5.2/9 問	5.6/9 問	6.0/9 問
わくわく問題（6 年）	5.8/9 問	6.2/9 問	6.5/9 問	6.8/9 問
国語・5 年	11.9/17 問	12.5/17 問	11.1/17 問	11.8/17 問
算数・5 年	2.4/7 問	2.6/7 問	3.9/6 問	4.1/6 問
理科・5 年	6.6/11 問	6.8/11 問	6.6/12 問	7.2/12 問
理科・6 年	6.7/11 問	7.0/11 問	＊今年度は全国学調で実施しているため記載なし	

＜アンケート＞

○児童アンケートから、本市児童は、目標に向かって頑張る「粘り強さ」や、人と関わり「共感する力」「相手を理解する力」、「好奇心」の項目で高い傾向がうかがえました。

○教師アンケートから、コンピュータやタブレットを使って、探究的な学びとなるような授業改善に向けて教員どうしで学びあっている傾向がうかがえました。

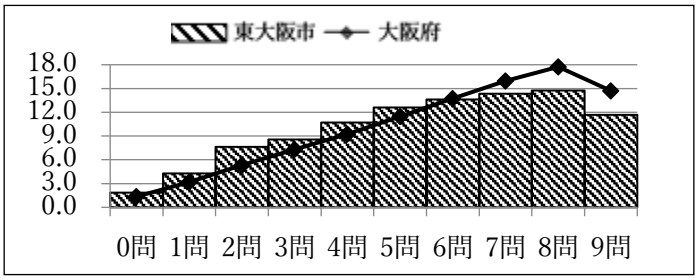
＜今後の取組み＞

子どもたちの知的好奇心、ワクワク感、探究心といった非認知能力や、「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」等の学習の基盤となる資質・能力を育んでいけるよう、学びの質的向上をめざしていきます。

そのために、子どもたち一人ひとりの学び方やペースに応じた「個別最適な学び」と、他者との対話や協力を通じて学びを深める「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、一人一台端末等を活用しながら、教師主導の授業から、子ども主体の授業への転換を引き続き推進していきます。

【わくわく問題】小学校５年実施

	平均正答数
東大阪市	5.6/9
大阪府	6.0/9



分類	区分	平均正答率(%) 市	府
観点	A　図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	65.4	70.4
	B　図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	61.6	66.6
	C　図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	53.2	57.1
	D　図や表，グラフ，短い文章，会話文等の内容を関連付けて，それをもとに自分の考えをまとめ，伝える。	63.1	67.7
	E　興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	53.2	57.1

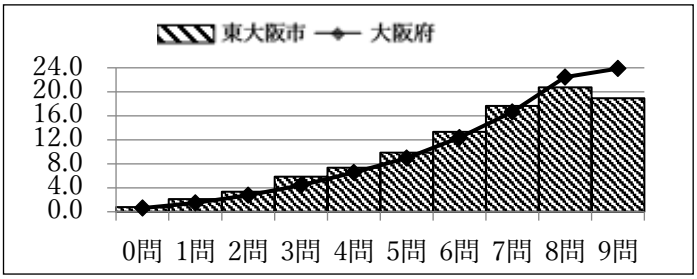
【よかった点】・内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考えること、興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝えること。

【課　　題】・内容を関連付けて、正しくとらえたり、それをもとに論理的に考えたりすること。

【指導改善のポイント】・複数のメディアごとの読み取り方を系統的に指導するとともに、どの情報と情報を関連付けて考えたのかを意識させ、収集した情報をもとに自分の考えを述べたりする学習活動を積極的に行うこと。

【わくわく問題】小学校６年実施

	平均正答数
東大阪市	6.5/9
大阪府	6.8/9



分類	区分	平均正答率(%) 市	府
観点	A　図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	75.1	78.3
	B　図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	70.6	74.0
	C　図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	63.6	66.7
	D　図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	73.6	77.0
	E　興味・関心のある事がらについて，意欲的に工夫して相手に伝える。	63.6	66.7

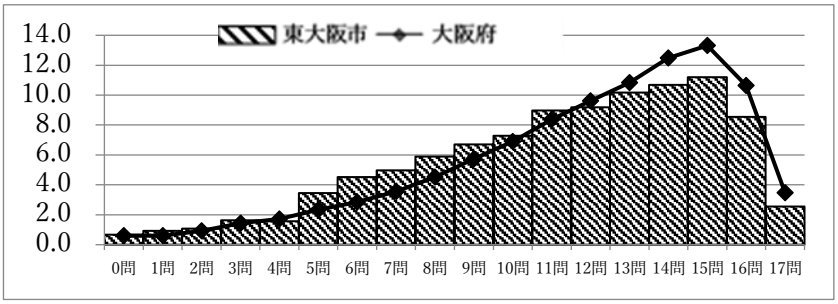
【よかった点】・内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考えること、興味・関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝えること。

【課　　題】・内容を関連付けて、それをもとに論理的に考えたり、自分の考えをまとめ、伝えたりすること。

【指導改善のポイント】・関連付けた情報をもとに筋道を立てて考える学習活動を重視するとともに、収集した情報をもとに自分の考えを述べたりする学習活動も積極的に行うこと。

【国語】小学校５年実施

	平均正答数
東大阪市	11.1/17
大阪府	11.8/17



分類	区分		平均正答率(%) 市	府
学習指導要領等の領域等	知識及び技能	（１）言葉の特徴や使い方に関する事項	68.4	72.4
		（２）情報の扱い方に関する事項	63.2	68.9
		（３）我が国の言語文化に関する事項	23.0	21.9
	思考力・判断力・表現力等	書くこと	65.1	69.1

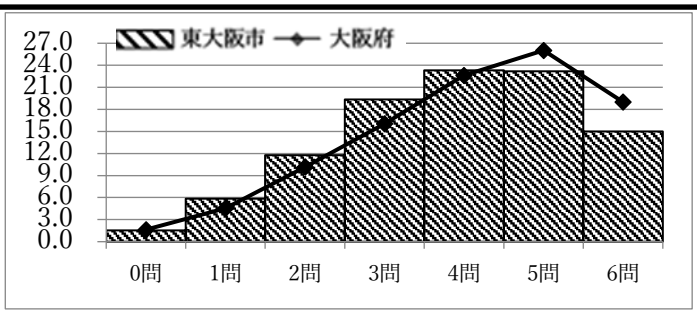
【よかった点】・文を正しく理解し、指示語の指示内容を捉えること。
・二文に分けて書くとき、文と文の意味のつながりを考え、適切な接続語を使うこと。

【課　　題】・文の中における主語と述語の関係に注意して、述語の部分を正しく書いたり、文の内容を正しく理解したりすること。

【指導改善のポイント】・短文作成や誤文修正、書いた文章を読み返すなどの活動を通して、正しく書く力を育てたり、読解や作文などで主語と述語の対応を確認したりすること。
・AI ドリル等を積極的に活用し、日常生活での活用を意識した学習活動を行うこと。

【算数】小学校５年実施

	平均正答数
東大阪市	3.9/6
大阪府	4.1/6



分類	区分	平均正答率(%) 市	府
学習指導要領等の領域等	数と計算	67.7	72.1
	図形	71.9	75.6
	測定／変化と関係	49.0	54.8
	データの活用	61.0	63.0

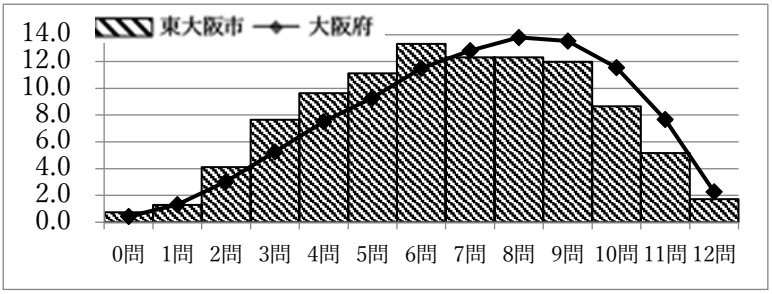
【よかった点】・資料から読み取った内容と棒グラフが示している内容を関連づけ、内容を正しく理解すること。

【課　　題】・２つの数量の関係と別の２つの数量の関係を図を用いて比較し、割合を用いて説明すること。

【指導改善のポイント】・数量同士の関係を図や表で整理したり、どの図や割合を使うと説明しやすいかを確認したりしながら、説明する学習活動を取り入れること。

【理科】小学校５年実施

５年生	平均正答数
東大阪市	6.6/12
大阪府	7.2/12



分類	区分	平均正答率(%) 市	府
学習指導要領等の領域等	「エネルギー」を柱とする領域	55.0	56.8
	「粒子」を柱とする領域	64.6	70.1
	「生命」を柱とする領域	67.9	69.2
	「地球」を柱とする領域	45.3	51.0

【良かった点】

・直列つなぎや並列つなぎ、その性質について等、体験的に習得した知識が定着している。

【　課　題　】

・空気を温めた時の体積の変化や温められた金属の体積が増えること、水のしみこみ方は、土のつぶの大きさによって違いがあるということについての理解や水たまりができなかった理由を考えて、書き表すこと。

【指導改善のポイント】

・実験の結果を表などに分類・整理したり、共通点や差異点に着目して考察したりするなど、対象の性質について考えたり説明したりする活動の充実を図ること

・科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする学習活動を重視するなど、言語活動が充実するようにすること

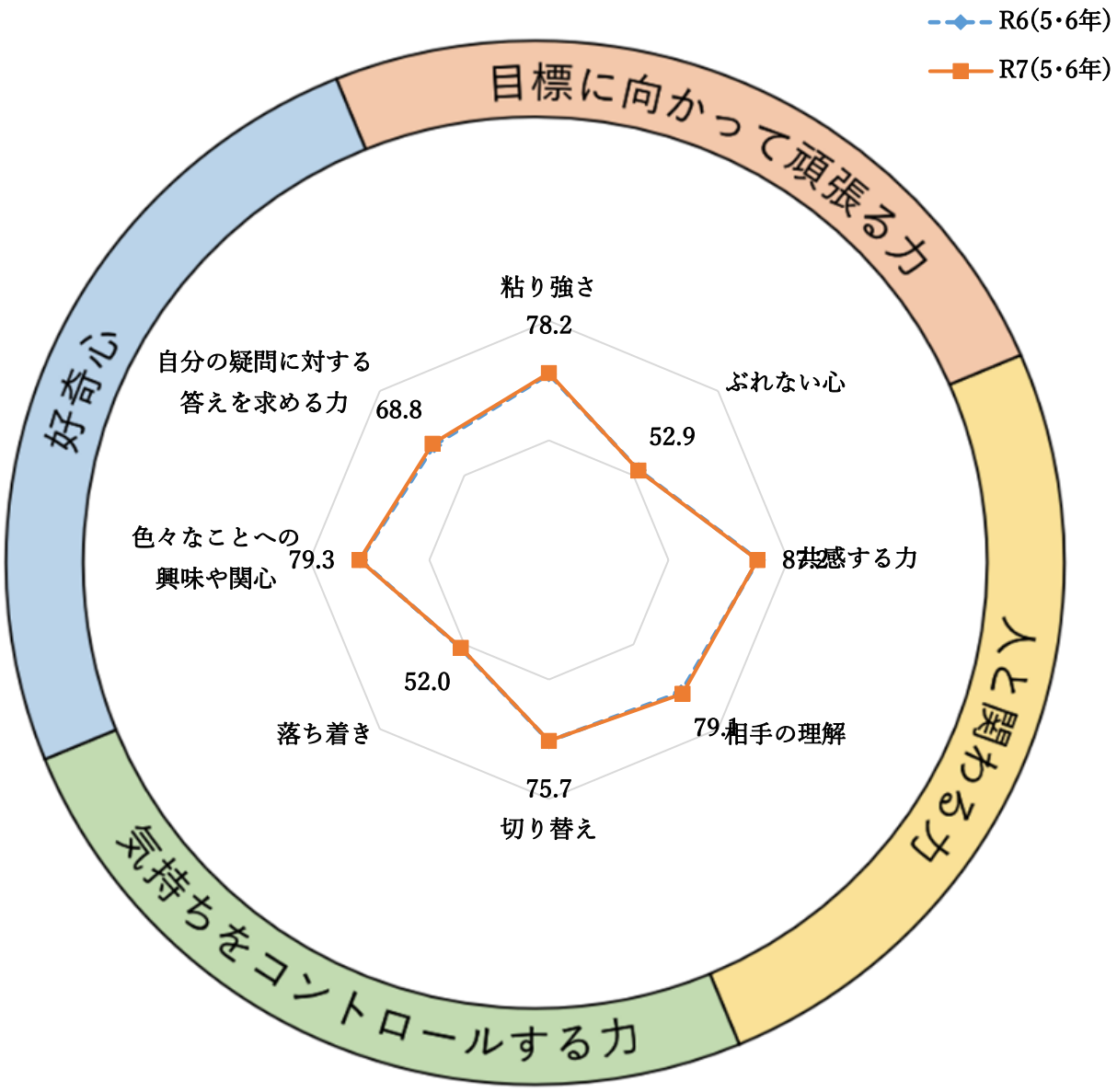
・日常生活や他教科との関連を図った学習活動を設定し、個々の児童が主体的に問題解決の活動をすすめることができるように工夫すること

児童アンケート（抜粋）

≪「児童自身の未来に向かう力」に関する項目≫

未来に向かう力と好奇心	項目名 項目ごとに３つの質問・５段階で回答 （3×５＝１５）	R６		R7	
		平均	ポイント	平均	ポイント
目標に向かって頑張る力	粘り強さ	11.7	77.7	11.7	78.2
	ぶれない心	8.0	53.1	7.9	52.9
人と関わる力	共感する力	13.1	87.5	13.1	87.2
	相手の理解	11.7	78.3	11.9	79.1
気持ちをコントロールする力	切り替え	11.4	75.8	11.4	75.7
	落ち着き	7.8	52.2	7.8	52.0
好奇心	色々なことへの興味や関心	11.8	79.0	11.9	79.3
	自分の疑問に対する答えを求める力	10.2	67.8	10.3	68.8

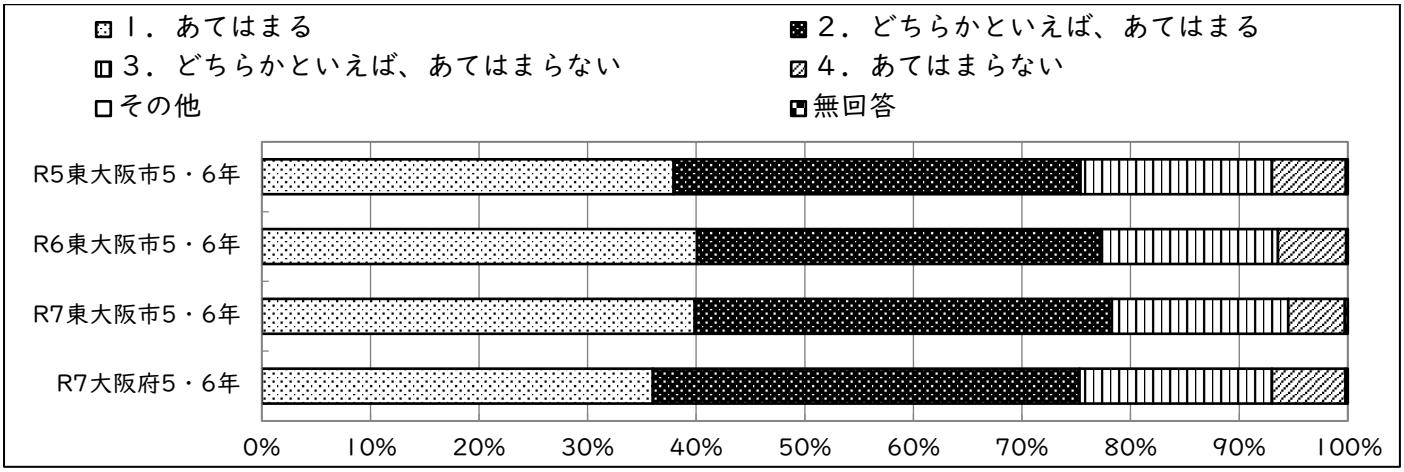
※ポイント：児童一人ひとりの回答から平均を算出し、その平均を項目の合計(15)で除して百分率で換算した値【ポイント=平均÷合計×100】



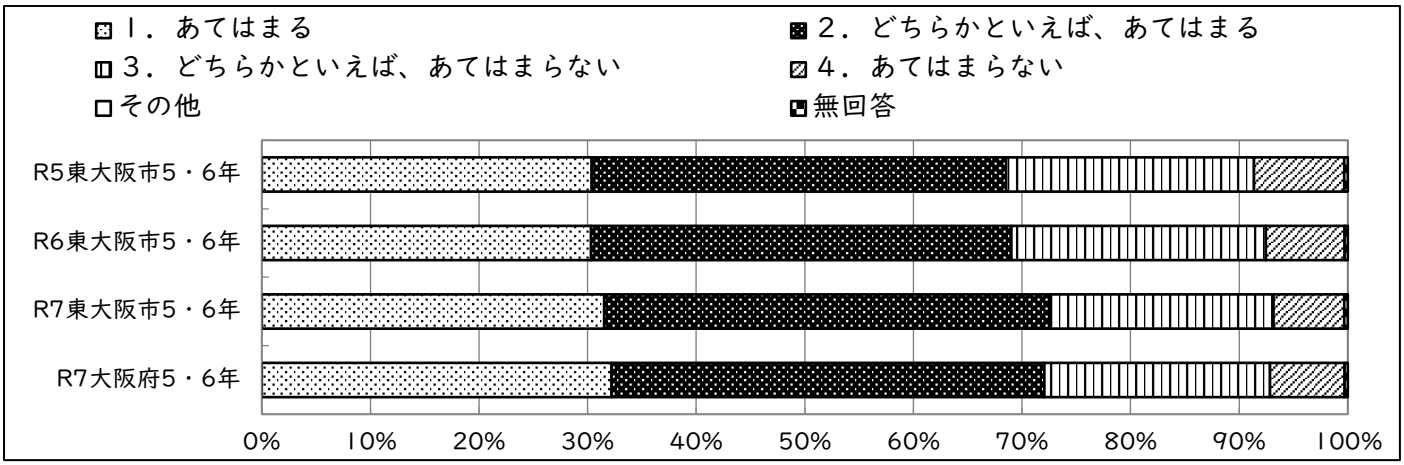
グラフ内の数値は最新年度の結果を表示

≪「学びに関わること」や「学びを生活に生かすこと」に関する項目≫

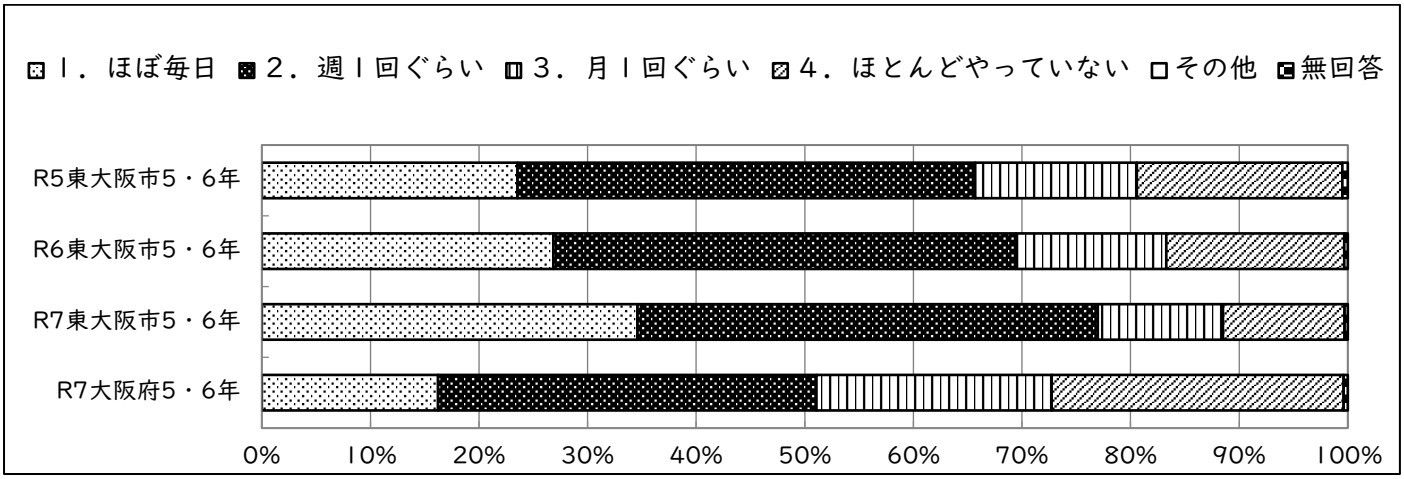
〇その時間に学んだことについて、ふり返りをしている



〇話し合う場面で自分の考えを深めたり、広げたりしている

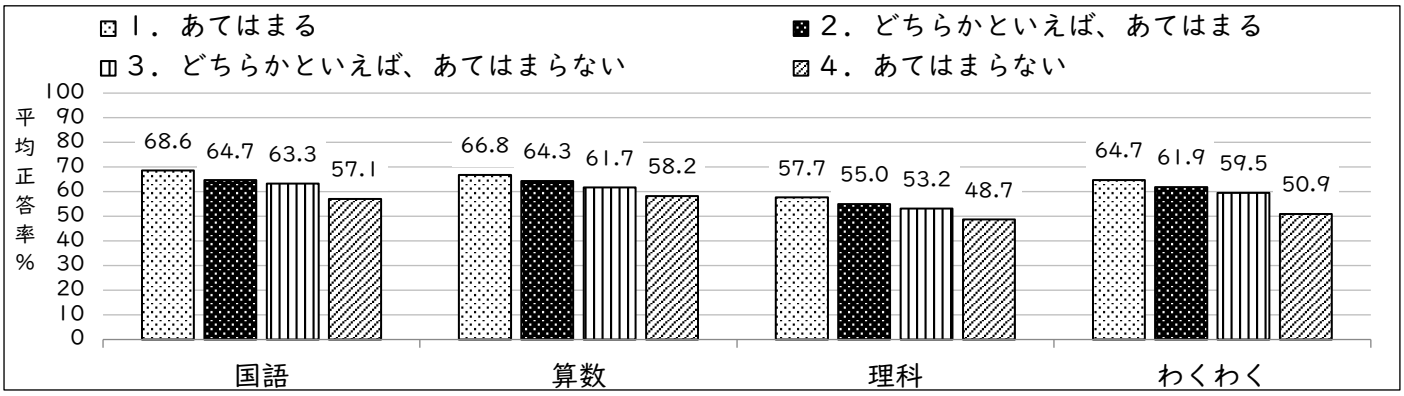


〇授業で、コンピュータやタブレットを使って、自分の考えを書きこんだり、友だちと意見を交流したりすることはどれくらいありますか

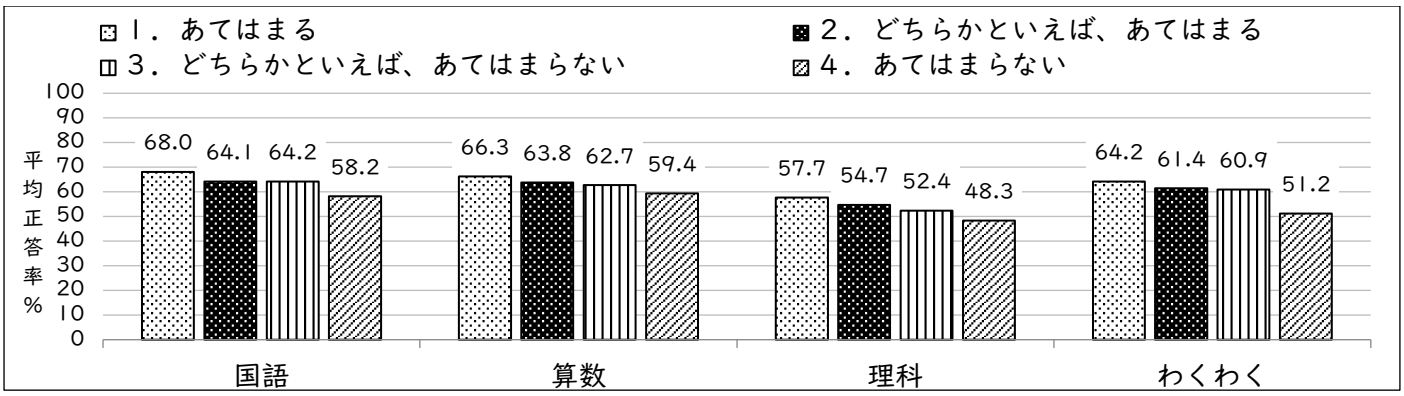


クロス集計　5年児童アンケート × 3教科・わくわく問題の平均正答率（抜粋）

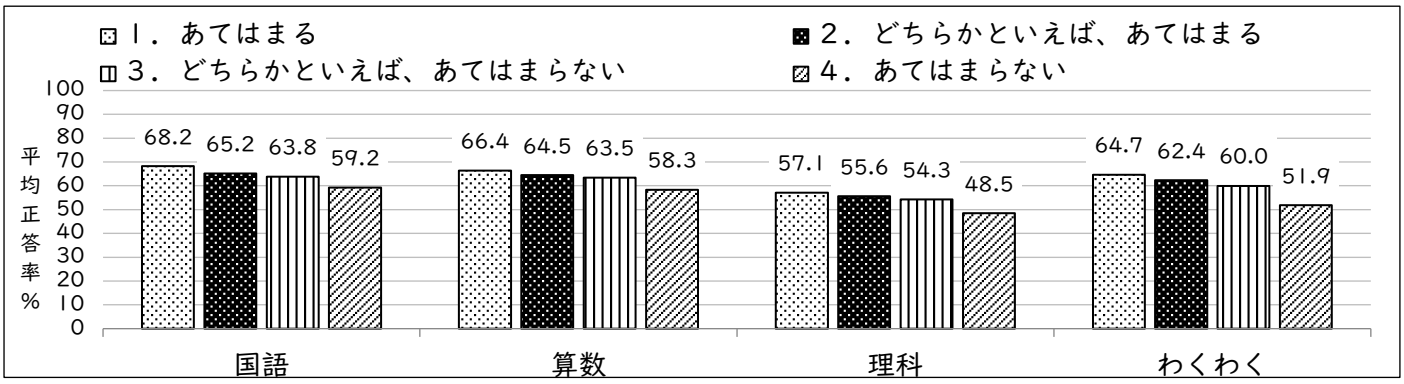
○その時間に学んだことについて、ふり返りをしている



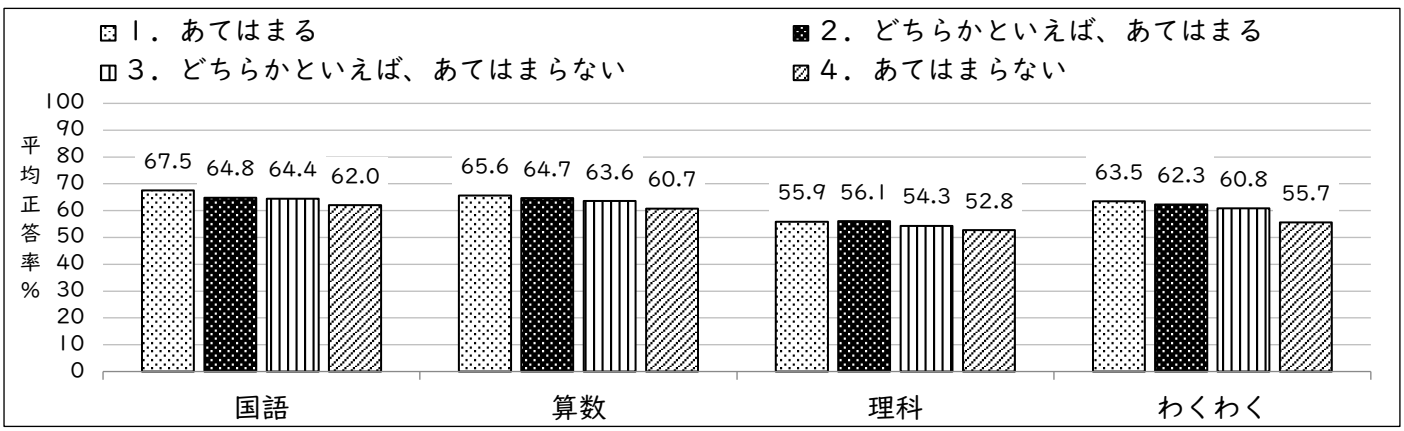
○わからないことや知りたいことがあったとき、本やインターネット等で調べている



○文章を読むとき、どこが大事なところか考えながら読んでいる

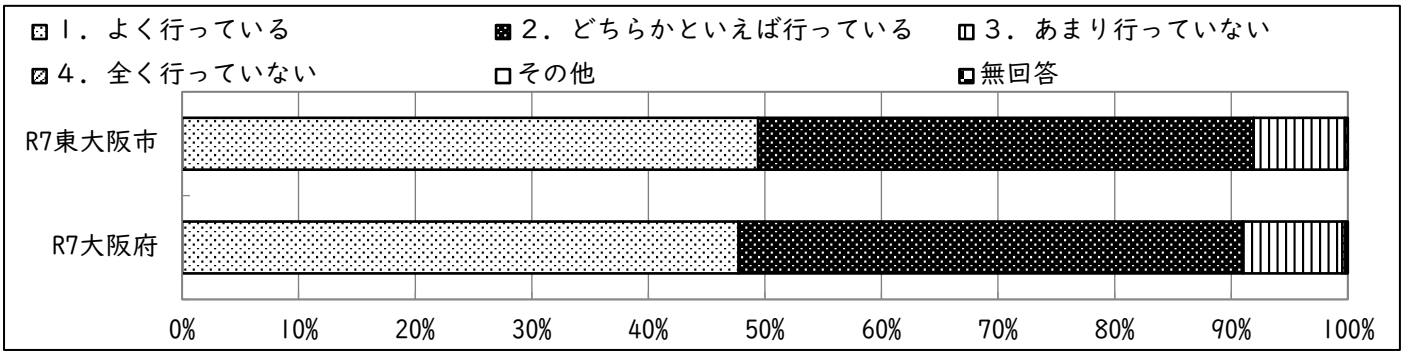


○先生や友だちが話していることで、大事だと思ったことをノート等に書いている

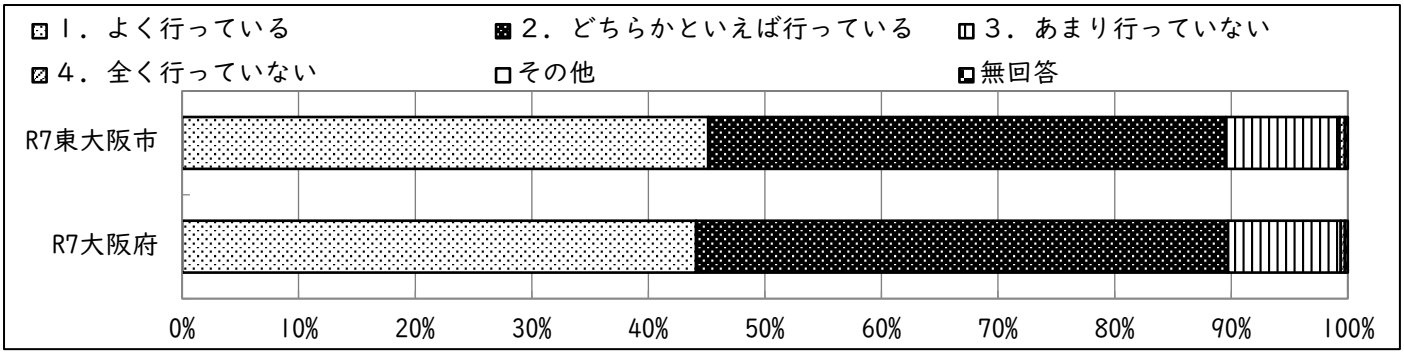


教員アンケート（抜粋）

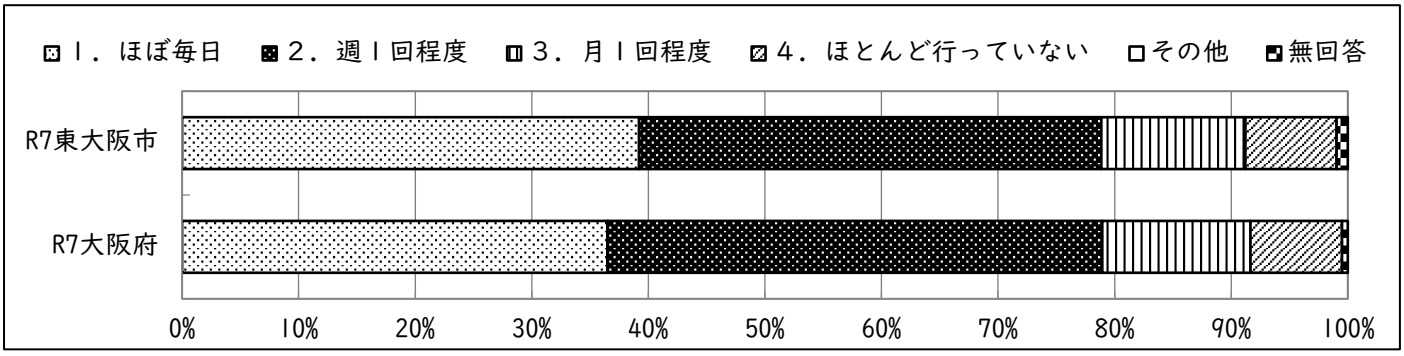
○児童に授業で学んだことのふり返りをさせていますか



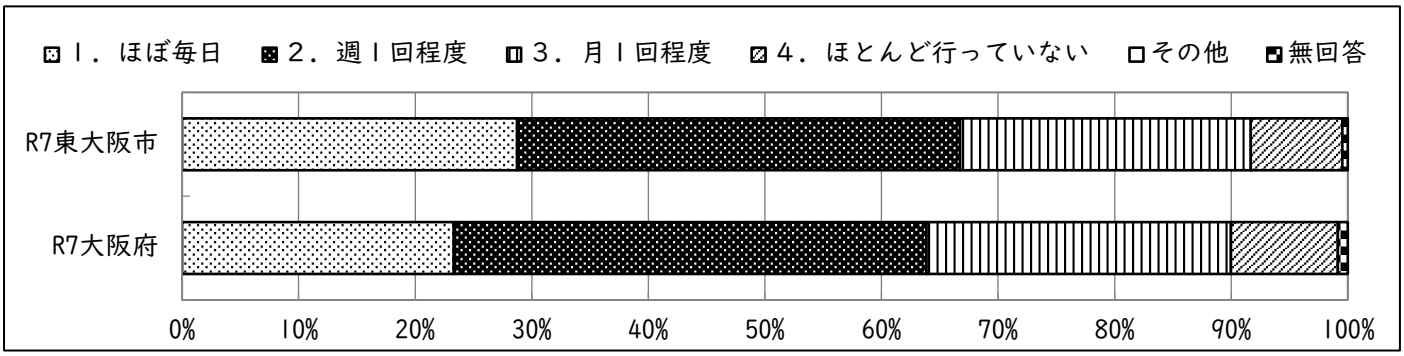
○ふり返りの中で、その授業で何を学んだか児童に考えさせていますか



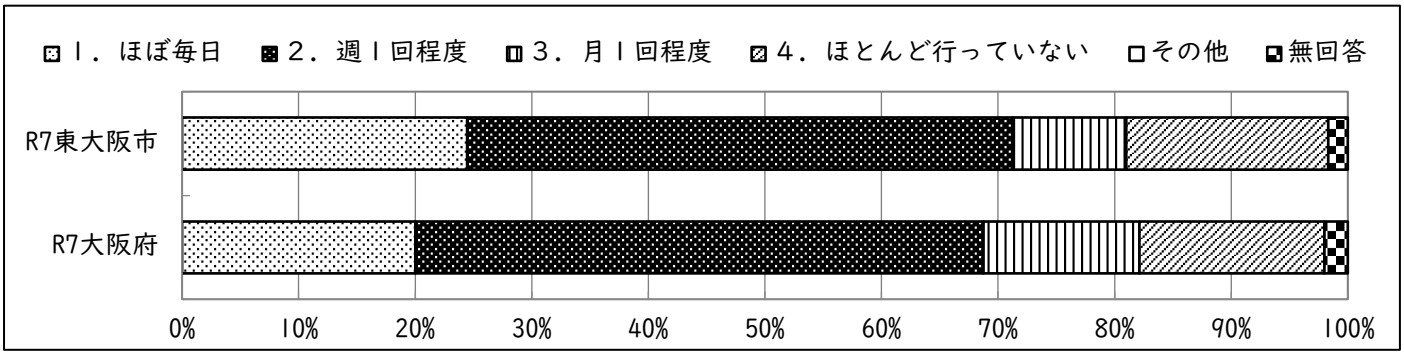
○児童一人ひとりの実態に応じた教材の準備ができていますか



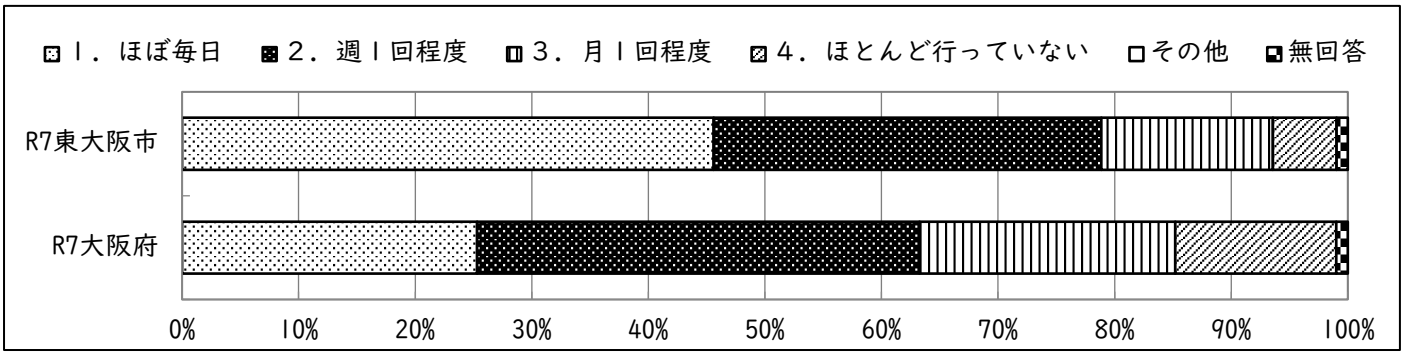
○児童が課題を解決するために進んで資料を集めたり取材をしたりするような授業をしていますか



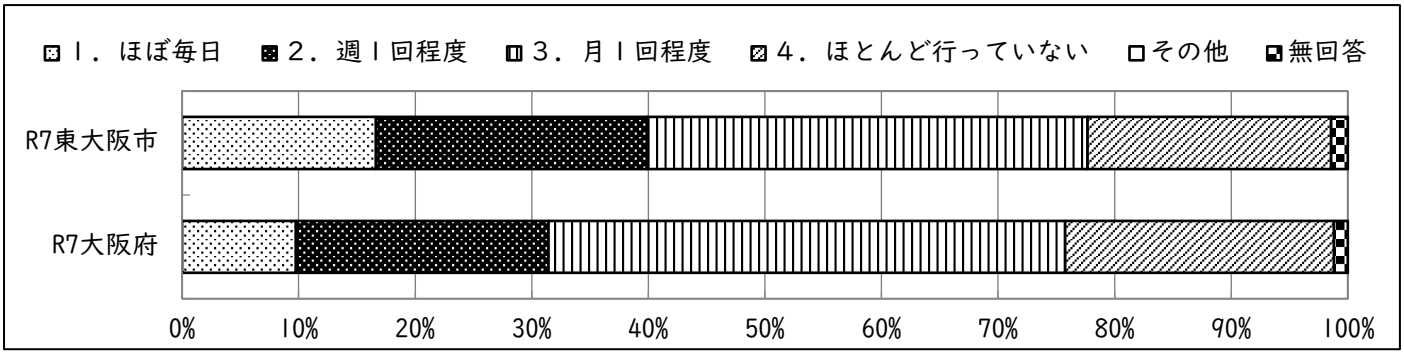
○児童が主体的に本を読むような取組みをしていますか



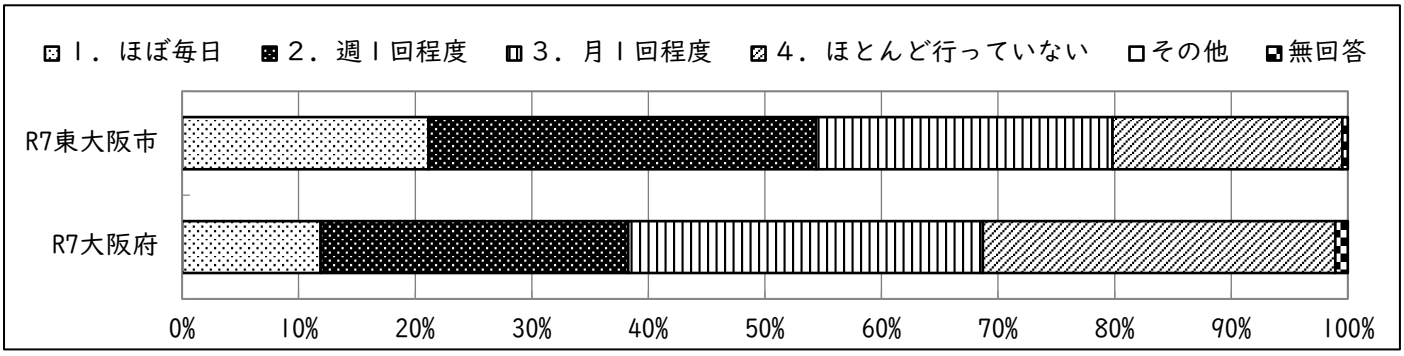
○コンピュータやタブレットを使って、児童が自分の考えを書きこんだり、まとめたりして、考えを共有する授業をしていますか



○コンピュータやタブレットを使って、プレゼンテーション資料等にまとめて発表する授業をしていますか



○コンピュータやタブレットを使って、児童が考えを共有したり発表したりした後に、感想やアドバイス等をコンピュータやタブレットで伝え合う活動をしていますか



児童アンケートより

○「児童自身の未来に向かう力」に関する項目では、「見えない学力」とも言われる非認知能力の育ちを見取ることができます。東大阪市の児童は、目標に向かって頑張る「粘り強さ」や、人と関わるための「共感する力」「相手への理解」、好奇心等の肯定的回答の数値が高い傾向が伺えます。また、「学びに関わること」や「学びを生活に生かすこと」に関する項目では、令和５年度からの東大阪市の経年変化をみると、肯定的回答率が年々上昇しています。特に、ICT も活用しながら必要な情報を調べ、友だちと意見を交流するなど協働的に学んだりする学習や、学びを生活に生かそうとしたりする学習等を通して非認知能力を育んでいくことは、各教科等の資質・能力を育む基盤となることが期待されます。このことは、次のクロス集計の結果からも見取ることができます。

クロス集計　5年児童アンケート×3教科・わくわく問題の平均正答率より

○全体的にアンケートに肯定的回答をしている児童は、３教科及びわくわく問題の正答率が高い傾向がみられます。このことから、日々の学習において、教科等で身に付けるべき資質・能力を育成し、生きて働く確かな知識を習得するとともに、多様な他者と対話し、協働しながら学び合う学習活動を通して、「粘り強さ」「協働性」「探究心」「自己肯定感」といった非認知能力を涵養していくことが求められます。

教員アンケートより

○　「児童一人ひとりの実態に応じた教材の準備ができていますか」「児童が課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしたりするような授業をしていますか」など、授業に係る項目において、強い肯定的回答率が大阪府平均より上回っています。このことから、教員は、児童の興味・関心、発達段階を踏まえながら、児童が主体的に課題解決に向かうことができるよう環境づくりに努めていることがわかります。

○ ふり返りに係る項目「児童に授業で学んだことのふり返りをさせていますか」「ふり返りの中で、その授業で何を学んだか児童に考えさせていますか」においても、強い肯定的回答率は、大阪府平均より上回っています。このことから、教員は、学びの過程を児童自身がしっかりとふり返られる機会をより一層重視し、児童が学びを自覚したり、学びを構造化したりすることで探究的な学びの質を高めようとしていることがわかります。

○ コンピュータやタブレットを使った探究的な学びとなる授業（情報収集、整理・分析、まとめ・表現など）に係る項目において、肯定的回答率は大阪府平均を大幅に上回っています。このことから、教員は ICT の効果的な活用を通して、基本的な操作だけでなく、適切な取り扱いや特性の理解など情報活用能力のさらなる育成や、児童が考えを共有し多様な意見を参照しながら自らの学びを進めていくことで、深い学びの実現に向けた授業づくりをより一層意識して進めていることが伺えます。

令和７年度　大阪府新学力テスト調査概要

目　的　子どもたち一人ひとりが、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの予測困難な社会を生き抜く力を着実につける。

実施日　令和７年４月16日（水）～　４月24日（木）※実施日は各学校が決定する。

実施児童数　（東大阪市）５年生：3296名　/　６年生：3347名　/　計：6643名

内　容　５年生：国語・算数・理科・わくわく問題（教科横断型問題）・アンケート
６年生：わくわく問題（教科横断型問題）・アンケート

≪わくわく問題（教科横断型問題）について≫（5、６年生共通問題：40分）

〇特定の教科の枠にとらわれず、複数の文章や資料から情報を読み取ったり、問いに対して判断の根拠や理由を明確にして自身の考えを表現したりする力を問う問題等日常の活動や現代的な諸課題（SDGｓ・プログラミング的思考）等をテーマとして、文章やグラフ等の様々な資料を題材に、資料を読み取ったり、自分の考えを表現する力を問う問題

〇答えが一つでない問いもある

≪各教科（国語・算数・理科）について≫（各20分）

〇４年生までの学習内容から出題

〇当該学年までに定着すべき学習内容で、基礎的な知識及び技能とともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を問う問題等

〇言語能力・読解力の基盤となる基礎的基本的な言葉等の理解や文章に書かれている意味を正確に捉える力（リーディングスキル）等

≪アンケートについて≫（20分）

〇児童自身の未来に向かう力（目標に向かって頑張る力、気持ちをコントロールする力、人と関わる力）、次の学びや生活にいかす力、好奇心等に関する内容や、学習状況、学級や授業等に関する意識等（タブレット端末を活用し、オンラインによる回答方式にて実施）

≪問題について≫

〇大阪府のホームページ上にウェブアップされています。
https://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/sukusuku/index.html